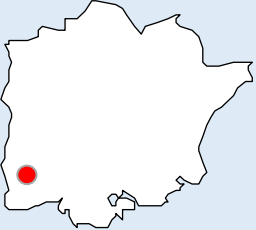


11 井原市地域耕作放棄地対策協議会（岡山県井原市）

産地の概要



品目

シャクヤク

栽培面積

146a（令和5年度末時点）

栽培戸数

生産者 17戸

取組体制

農業委員会（耕作放棄地対策、生産者の勧誘）
井原市（協議会事務局、関係機関との調整、補助金等助成）
JA晴れの国岡山井原市薬用作物部会（生産・調製・出荷）
県農業普及指導センター（生産技術の検討・実証、栽培暦の作成）
JA全農おかやま（販売、販路開拓）
【協力機関】 国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所（以下、基盤研）
（品種育成者・種苗提供、栽培指導）

特徴

耕作放棄地対策の一環として薬用シャクヤクを導入。基盤研が育成した薬用成分と収量の高い「べにしずか」等を栽培し産地を拡大

取組の背景



市街地を除いたほとんどが山間地域で、担い手不足や農業者の高齢化により耕作放棄地の増加が問題となっていた当市において、平成21年3月に協議会を設立し、耕作放棄地対策となる作物を探していたところ、中国依存の高い薬用作物増産の機運を察し、平成22年に農業委員を中心に薬用シャクヤクの栽培を提案。情報収集や勉強会を重ね、平成26年度に国の事業を活用し試験栽培をスタートした。

▲シャクヤクほ場（7月）

品目選定理由

- ・近隣に切り花シャクヤクの産地があったことや、農業委員の花き生産者の知見を活かせる素地があった。
- ・栽培が比較的簡単で、新たに始めやすい品目であった。
- ・勉強会の講師であった基盤研の先生から提案された「べにしずか」の試験栽培が良好であった。

課題

- ・「べにしずか」の栽培面積を拡大したいが、他の産地がないため種苗は自家増殖しか入手方法がない
- ・薬用作物は市場がなく実需者主導。収穫までの栽培期間が長く、生産拡大するには販路の確保が必要

主な取組内容

①種苗

・「べにしずか」のメリクロンによる種苗増殖を検討したが実用化には至らず
当市のほかに栽培地はないため、現状においては自家増殖のみ

②栽培管理

・試験栽培の結果や切り花シャクヤクの栽培指針等を参考に栽培暦を作成
・除草は草刈り機と除草剤を併用するが、実需者によっては除草剤が使用不可の場合もある
・薬用成分が最も充実する定植後4年目に収穫。掘取りは重労働のためショベルカーを使用し、生産者全員が協力して実施

③加工・調製・集出荷

・実需者に応じた調製方法、出荷形態をとっている。洗浄機のほか、市の補助によりスライサーと乾燥機を導入。JA全農おかやまを通じて出荷

④その他

・根の収穫ができない間の収入源として3年目、4年目の株から切り花を採取・出荷するほか、花摘み体験ツアーを開催。薬用プラス切り花で収入を確保



▲収穫作業（11月）



▲「べにしずか」の花

成果

【取組による定量的な成果】

薬用作物面積拡大 R1：81a → R5：146a 生産者数増加 R1：11戸 → R5：17戸

今後の展開

- ・井原市を「薬用シャクヤクのふるさと」にするべく生産拡大を目指している